

**アドイン照合2プログラム
for アシストパック Pro BHT-1300
取扱説明書 第2版**



2016年 12月 1日
コンピュータ・アシスト株式会社



目次

1 照合プログラムの動作設定	1
2 データ区分	2
3 照合設定	17
3-1 照合データ条件.....	17
3-2 動作モード.....	21
3-3 OK/NGブザー設定.....	22
4 データ保存	23
5 設定更新	25
6 マスターファイル作成/送信	26
7 ハンディターミナルプログラム	28
7-1 アドイン照合プログラムダウンロード.....	28
7-2 業務設更新.....	29
7-3 アドイン照合プログラム実行.....	30
7-4 1対1照合 ～ 1対5照合.....	31
7-5 照合1対N照合.....	32
7-6 入力/データ処理エラー表示.....	33
7-7 照合データ送信.....	34
7-8 マスターファイル受信.....	35



1 照合プログラムの動作設定

業務設定において、動作モードに「アドインプログラム」を選択し、プログラム名に「DACMP130. PD4」を設定して「アドインプログラム設定」ボタンをクリックしてください。

「アドイン業務プログラム」を選択

業務設定(照合2サンプル.bnf)

新規作成 開く 保存 送信データ一覧表示 業務設定送信 業務設定受信 閉じる 終了

業務追加 業務削除 グループ項目追加 グループ項目削除 データ項目追加 データ項目削除

設定画面選択

基本設定 動作設定

業務メニュー

1対1照合
1対5照合
1対N照合

BHT-1300画面

1対1照合

設定する
アドイン業務プログラム
の画面表示に
なります。

業務名 1対1照合 (半角15文字以内)

動作モード アドイン業務プログラム プログラム名 DACMP130.PD4

アドインプログラム設定

「DACMP130. PD4」を入力

このボタンをクリックしてください

2 データ区分

担当者コードなどのデータ区分を使用する場合は、「データ区分」をクリックして「データ区分を使用する」をチェックしてください。

ここをクリック

「データ区分」を使用

マスターファイルを使用して文字列を表示する場合はここをチェックして「マスターファイル」と「フィールド情報」を設定します。

マスターファイルにデータが登録されていないとエラーになります。

設定項目	説明
項目名	入力項目の表示文字列を入力します。
データ形式	文字列，数字(0 詰め表示)，数字(0 7桁表示)，日付(YYYY/MM/DD)，日付(YY/MM/DD)，日付(MM/DD)，時刻(HH:MM)から選択します。
データ表示	入力データの標準表示，横倍表示を設定します。
入力桁数	データ形式が文字列，数字(0 詰め表示)，数字(0 7桁表示)のデータ入力桁数を、最大，最小で制限します。
バーコード	「バーコード使用」をチェックして、「バーコード読取設定」ボタンをクリックすると設定画面を表示します。
文字列表示マスター	「文字列表示マスターファイルを使用する」をチェックして、表示用マスターファイルとフィールド情報を設定してください。 「マスターデータがない場合エラー」を設定すると、入力したデータがマスターファイルに登録されていないとエラーになります。

・データ区分におけるバーコード読取設定

バーコード読取設定 (BHT-1300)

読取バーコード

☐ JAN/EAN/UPC ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ チェックデジットなし ☐ あり ☐ STF ☐ チェックデジットなし ☐ あり

☐ NW7 ☐ チェックデジットなし ☐ あり ☐ Code39 ☐ チェックデジットなし ☐ あり

☐ Code93 ☐ GS1-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☒ QRコード ☐ iQRコード ☐ PDF417 ☐ Data Matrix

☐ MaxiCode ☐ EAN-UCC Composite

☐ ユーザー定義

読取桁数 最大 100 桁 最小 1 桁

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット 固定長

☒ データチェックを使用する

チェックデータ位置 1 桁目から

チェックデータ

チェック方法 一致しなかったら入力エラー

バーコードデータ

データ選択 1 桁目から 10 桁

☒ 指定文字を削除する

削除する文字

キャンセル 確定

「1 桁目から 10 桁」と設定した場合は、読み取ったバーコードデータの「1 桁目から 10 桁」がデータ区分のデータになります。

「9999 桁目から 10 桁」と設定した場合は、「末尾から 10 桁」がデータ区分のデータになります。

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
読取桁数	読取桁数の最大と最小を設定します。(1 ~ 3000) NW7 の場合はスタート/ストップキャラクタを含めた桁数を設定します。読取バーコードが最小桁数未満または最大桁数を超える場合は、「バーコード 桁数エラー」と表示します。
GTIN変換	「JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTINコードに変換します。
チェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	バーコードのデータフォーマットを「固定長」、「カンマ区切り」、「スペース区切り」、「タブ記号区切り」、「CR記号区切り」、「区切り記号指定」から選択します。データチェック、データ選択で使います。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
データ選択	GTIN変換、チェックデジットをデータに含めない処理をしたバーコードデータからデータ区分の項目データにするデータを選択します。
指定文字を削除	選択したデータから指定した半角文字を削除して入力データにします。3文字まで指定できます。

○ 読取バーコード

バーコード	備考
JAN/EAN/UPC	JAN-13, JAN-8, EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E + アドオンコード
書籍コード	先頭97のJAN-13と先頭19のJAN-13の2段バーコード読取 読み取ったデータは、26桁のデータになります。 注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。
雑誌コード	先頭49のJAN-13+アドオンコード5桁の合計18桁のデータ 注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。
ITF	チェックデジット (モジュラス10) の設定可能
STF	チェックデジット (モジュラス10) の設定可能
NW7	チェックデジット (モジュラス16) の設定可能
Code 39	チェックデジット (モジュラス43) の設定可能 数字 (0~9), 英字 (A~Z), 6種類の記号とスペース
Code 93	数字 (0~9), 英字 (A~Z), 6種類の記号とスペース
GS1-128/EAN-128/Code128	GS1-128, UCC/EAN-128とCode128 数字 (0~9), 英字 (A~Z, a~z), 記号
GS1 DataBar	リミテッド, エクスパンデッド, エクスパンデッドスタック
QRコード	マイクロQR, QRモデル1, QRモデル2 (BHT-1300Qのみ)
iQRコード	正方形iQRコード, 長方形iQRコード (BHT-1300Qのみ)
PDF417	マイクロPDF417, PDF417 (BHT-1300Qのみ)
Data Matrix	正方形Data Matrix, 長方形Data Matrix (BHT-1300Qのみ)
MaxiCode	BHT-1300Qのみ
EAN・UCC Composite	共通商品コード, EAN-128, RSSのCOMPOSITEバーコード (BHT-1300Qのみ)
ユーザー定義	2段バーコード, 3バーコード (BHT-1300Qのみ) の読取設定など、ユーザー独自に読取設定 をする場合に使用します。 ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。 <第1読み取りコード>, <第2読み取りコード>, , <第20読み取りコード> 不正な設定をすると、HTプログラムにおいてエラーが発生しますので注意してください。



○バーコードのユーザ一定義

読取バーコードのユーザ定義は、ユーザ定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。

＜第 1 読み取りコード＞, ＜第 2 読み取りコード＞, , ＜第 16 読み取りコード＞

[illegible]

BHT-BASICプログラミングマニュアル (BHT-1300シリーズ用) より

■ 読み取りコード (BHT-1300B)

読み取りコードには、共通商品コード（JAN，EAN，UPC），インターリーブド2of5（ITF），Codabar（NW7），Code39，Code93，Code128，スタンダード2of5（STF），RSS があります。

☐ 共通商品コード (JAN, EAN, UPC)

書式: A [:[コード] [1文字目 [2文字目]] [サプリメンタル]]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13) , UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。

1文字目と2文字目は先頭文字（国フラグ）であり、0～9の数字で指定してください。

サプリメンタルに**S**を指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

□ インターリーブド 2 of 5 (I T F)

書式： I [: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。



□ C o d a b a r (NW7)

書式： N [: [最小桁数 [-最大桁数]] [スタート ストップ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, CまたはDを指定してください。桁数には、スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ C o d e 3 9

書式： M [: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ C o d e 9 3

書式： L [: [最小桁数 [-最大桁数]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。



□ GS1-128/EAN-128/Code 128

書式： K [: [最小桁数 [-最大桁数]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ スタンダード2 of 5 (STF)

書式： H [: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD] [スタート ストップ]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタに標準、短縮のどちらの形式を用いるかを選択します。Nを指定すると標準、Sを指定すると短縮が選択されます。省略すると、どちらの形式でも読み取り可能です。

□ GS1 DataBar (RSS)

書式： R



■ 読み取りコード (BHT-1300Q)

読み取りコードには、2DコードのQRコード、PDF417、MaxiCode、DataMatrix、EAN・UCC Compositeおよび共通商品コード(JAN, EAN, UPC)、インターリーブド2of5(ITF)、Codabar(NW7)、Code39、Code93、Code128、RSSがあります。

□ QRコード

書式: Q[:[シンボル種別][最小コードバージョン][-最大コードバージョン][連結モード]]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	マイクロQR
M	QRモデル1
L	QRモデル2

シンボル種別を省略すると、マイクロQR、QRモデル1、QRモデル2を読むことができます。

最小コードバージョンと最大コードバージョンは、読み取り可能なQRコードの最小と最大のコードバージョンで、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コードバージョン	シンボル種別
1～4	S
1～22	M
1～40	L

最小コードバージョン≤最大コードバージョンでなければなりません。

最小コードバージョンと最大コードバージョンの両方を省略すると、各シンボル種別の最大コードバージョンまでのQRコードを読み取ることができます。最大コードバージョンだけを省略すると、最小コードバージョンで指定したバージョンのQRコードしか読み取れません。

連結モードにEを指定すると、最大16分割されたQRコードシンボルの読み取りを許可します。

連結モードを省略すると、分割されたQRコードシンボルの読み取りは禁止となります。



連結コードの読み取りでは、ブザーの鳴動はは次のようになります。連結コードの最初のコードを読み取ると、ブザーが2回鳴動し連結コードの読み取りモードに入ります。その後は、連結コードを読み取るたびにブザーが1回鳴動し、最後のコードを読み取ると、3回鳴動して連結コードの読み取りを完了します。

連結コードの読み取り順序は任意ですが、すべての連結コードを読み取る必要があります。一度読み取った連結コードは、その連結コードの読み取りが完了するまでは、再度読み取りを行なっても読み取りません。

次の場合は、連結コードの読み取りが完了しなくても、連結コードの読み取りモードを終了して読み取ったデータはすべて破棄されます。

- ・ 連結コードでないQRコードを読み取った場合
- ・ 別の連結コードを読み取った場合
- ・ 読み取り口を3秒以上コードから外した場合
- ・ トリガスイッチを放した場合

連結コードの読み取り中は、連結コードの読み取りが終了するまで、QRコード以外の読み取りは禁止となります。

□ i QRコード

書式： G [: [シンボル種別 [最小コードバージョン] [ー最大コードバージョン] [連結モード]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	正方形 i QR
R	長方形 i QR

シンボル種別を省略すると、正方形 i QR、長方形 i QRを読むことができます。

最小コードバージョンと最大コードバージョンは、読み取り可能なQRコードの最小と最大のコードバージョンで、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コードバージョン	シンボル種別
1 ~ 6 1	S
1 ~ 1 5	R

最小コードバージョン ≤ 最大コードバージョンでなければなりません。



最小コードバージョンと最大コードバージョンの両方を省略すると、各シンボル種別の最大コードバージョンまでの i Q R コードを読み取ることができます。最大コードバージョンだけを省略すると、最小コードバージョンで指定したバージョンの i Q R コードしか読み取れません。

連結モードに E を指定すると、最大 16 分割された i Q R コードシンボルの読み取りを許可します。

連結モードを省略すると、分割された i Q R コードシンボルの読み取りは禁止となります。

連結コードの読み取りでは、ブザーの鳴動は次のようになります。連結コードの最初のコードを読み取ると、ブザーが 2 回鳴動し連結コードの読み取りモードに入ります。その後は、連結コードを読み取るたびにブザーが 1 回鳴動し、最後のコードを読み取ると、3 回鳴動して連結コードの読み取りを完了します。

連結コードの読み取り順序は任意ですが、すべての連結コードを読み取る必要があります。一度読み取った連結コードは、その連結コードの読み取りが完了するまでは、再度読み取りを行なっても読み取りません。

次の場合は、連結コードの読み取りが完了しなくても、連結コードの読み取りモードを終了して読み取ったデータはすべて破棄されます。

- ・ 連結コードでない i Q R コードを読み取った場合
- ・ 別の連結コードを読み取った場合
- ・ 読み取り口を 3 秒以上コードから外した場合
- ・ トリガスイッチを放した場合

連結コードの読み取り中は、連結コードの読み取りが終了するまで、i Q R コード以外の読み取りは禁止となります。

□ P D F 4 1 7

書式： Y [: [シンボル種別]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	マイクロ P D F 4 1 7
M	P D F 4 1 7

シンボル種別を省略すると、マイクロ P D F 4 1 7、P D F 4 1 7 を読むことができます。

□ M a x i C o d e

書式： X



□ Data Matrix

書式： Z [: [シンボル種別 [最小コード番号] [- 最大コード番号]]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	正方形 Data Matrix
R	長方形 Data Matrix

シンボル種別を省略すると、正方形 Data Matrix，長方形 Data Matrix を読むことができます。

最小コード番号と最大コード番号は、読み取り可能な Data Matrix の最小と最大のコード番号で、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コード番号	シンボル種別
1 ~ 24	S
1 ~ 6	R

最小コード番号 ≤ 最大コード番号でなければなりません。

最小コード番号と最大コード番号の両方を省略すると、各シンボル種別の最大コード番号までの Data Matrix を読み取ることができます。最大コード番号だけを省略すると、最小コード番号で指定したコード番号の Data Matrix しか読み取れません。コード番号とセル数の対応は以下の通りです。

正方形 Data Matrix

コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL
1	10 X 10	7	22 X 22	13	44 X 44	19	88 X 88
2	12 X 12	8	24 X 24	14	48 X 48	20	96 X 96
3	14 X 14	9	26 X 26	15	52 X 62	21	104 X 104
4	16 X 16	10	32 X 32	16	64 X 64	22	120 X 120
5	18 X 18	11	36 X 36	17	75 X 72	23	132 X 132
6	20 X 20	12	40 X 40	18	80 X 80	24	144 X 144



長方形DataMatrix

コード 番号	ROW X COL	コード 番号	ROW X COL
1	8 X 18	4	12 X 36
2	8 X 32	5	16 X 36
3	12 X 26	6	16 X 48

□ EAN・UCC Composite

書式： V

共通商品コード、EAN-128、RSSのCompositeバーコードを読み取ることができます。

□ 共通商品コード (JAN, EAN, UPC)

書式： A [: [コード] [1文字目 [2文字目]]] [サプリメンタル]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13) , UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。

1文字目と2文字目は先頭文字（国フラグ）であり、0～9の数字で指定してください。

サプリメンタルにSを指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

□ インターリーブド2 of 5 (ITF)

書式： I [: [最小桁数 [-最大桁数]]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁



までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDに**C**を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ C o d a b a r (NW7)

書式： N [: [**最小桁数** [-**最大桁数**]] [**スタート** **ストップ**] [**CD**]

最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数**≤**最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートと**ストップ**は、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, CまたはDを指定してください。桁数には、スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CDに**C**を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ C o d e 3 9

書式： M [: [**最小桁数** [-**最大桁数**]] [**CD**]

最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数**≤**最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDに**C**を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。



□ Code 93

書式： L [: [最小桁数 [-最大桁数]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ GS1-128/EAN-128/Code 128

書式： K [: [最小桁数 [-最大桁数]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ GS1 DataBar (RSS)

書式： R

□ 多段コード読み取り

書式： &

多段コードを読み取るには、&を指定し、その後に続けて読み取るコードを指定します。段数は3段まで設定できます。

&, <1段目読み取りコード>, <2段目読み取りコード>, <3段目読み取りコード>と設定してください。

多段コードとして指定できる読み取りコードは、共通商品コード, インターリーブド of 25 (ITF), Codabar (NW7), Code 39, Code 93, Code 128です。

(1) 多段コード指定は1段で読む読み取りコードの指定とは独立しています。

例：共通商品コードEAN-8とEAN-13の2段の場合

&, A:B, A:A



例：共通商品コード E A N - 8 を 1 段と C o d e 3 9 を 2 段の場合

A: B, &, M, M

2 段コードは最後に指定します。

- (2) 2 次元コードと多段コードを同時に指定で指定することができます。

例：QRコードと C o d e 3 9 3 段の場合

1 0 桁のコードで C D 付き」

Q, &, M, M, M

- (3) 多段コード指定では先頭の 2 文字を指定することで読み取り順序を指定することが可能です。

例：I T F 3 段（文字指定付き）次の順序で読み取る場合－「“1 2”で始まるコード」, 「“3 4”で始まる 6 ~ 1 0 桁のコードで C D 付き」, 「“5 6”で始まる 1 2 桁のコード」

&, I:;12, I:6-10C:34, I:12:56

- (4) コード種類が同じでデータも同じコードが含まれる場合は読み取りができません。

1 段目 E A N - 1 3 4 9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1

2 段目 E A N - 1 3 1 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 3

3 段目 E A N - 1 3 4 9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1

上記コードは、次の指定で読み取ることはできません。

&, A:A49, A:A12, A:A49

- (5) コード種類、桁数、条件が同じ指定を 1 段読み取りと多段コード読み取りに指定した場合、1 段コードは読み取りができません。

1 段コード E A N - 1 3 4 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 4

多段コード E A N - 1 3 4 9 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1 4

E A N - 1 3 1 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 3

上記コードは、次の指定で読み取ることはできません。

A:A49, &, A:A49, A:A12

- (6) 多段コード指定では I T F は 4 桁未満のものを読み取ることができません。ただし、桁数を指定した場合は読み取ることができます。

- (7) 共通商品コードのサプリメンタルコードの多段コード指定はできません。



■情報表示ファイル

○ファイル名

ファイル名は、HT内のファイル名と重複しないように、下記の書式で入力してください。

＜大文字半角英数字1～8文字＞. ＜拡張子（大文字半角英数字1～3文字）＞

（拡張子にPD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, ZIP, TMP
を使用しないでください。）

○データ構成

フィールド No	構成データ
1	検索キー
2	情報表示データ

●フィールド情報ファイル

拡張子：. FLD

データ書式：

＜検索キーフィールド 桁数＞, ＜情報表示データフィールド 桁数＞

3 照合設定

バーコード照合，部分データ照合，マスター照合を混在して設定します。

3-1 照合データ条件

動作モード，NG 表示後の動作，項目名，バーコード読取，マスター参照，照合条件と OK/NG 表示ブザーを設定します。

1 対 1 照合～ 1 対 5 照合， 1 対 N 照合から選択

ここをクリック

NG 表示後に再入力するか
照合元入力に戻るかを選
択します。

読み取ったバーコードデータと
読取済みバーコードデータまたは
マスター参照データの照合する
条件を「バーコード読取」，
「マスター参照」，「照合条件」
をクリックして設定します。

OK 表示， NG 表示の時間と
OK ブザー， NG ブザーの鳴動
を設定します。

①照合元／照合先のバーコード読取設定

照合元 バーコード読取設定 (BHT-1300)

読取バーコード

☐ JAN/EAN/UPC ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ STF

☐ NW7 ☐ Code39

☐ Code93 ☐ GS1-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☒ QRコード ☐ iQRコード ☐ PDF417 ☐ Data Matrix

☐ MaxiCode ☐ EAN・UCC Composite

☐ ユーザー定義

読取桁数 最大 3000 桁 最小 50 桁

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット 固定長

☒ データチェックを使用する

チェックデータ位置 1桁目から

チェックデータ

チェック方法 一致しなかったら入力エラー

照合データ数 5

照合データ	バーコードデータ
照合データA	1 桁目から 10 桁
照合データB	11 桁目から 10 桁
照合データC	21 桁目から 10 桁
照合データD	31 桁目から 10 桁
照合データE	41 桁目から 10 桁

☒ 指定文字を削除する 削除する文字

キャンセル 確定

照合データ数（1～5）を選択して、照合に使用するデータを設定します。この照合データを使用して照合条件を設定します。

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
読取桁数	読取桁数の最大と最小を設定します。(1 ～ 3000) NW7 の場合はスタート/ストップキャラクタを含めた桁数を設定します。読取バーコードが最小桁数未満または最大桁数を超える場合は、「バーコード 桁数エラー」と表示します。
GTIN変換	「JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTINコードに変換します。
ITF, STF, NW7, Code39 のチェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	バーコードのデータフォーマットを「固定長」、「カンマ区切り」、「スペース区切り」、「タブ記号区切り」、「CR記号区切り」、「区切り記号指定」から選択します。データチェック、照合データで使用します。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
照合データ数	読取ったバーコードの部分データを照合データとして設定する数を選択します。(1～5)
照合データ先頭から桁数	照合にしようとするデータを設定します。1桁目から99桁と設定すると、バーコードの全データを照合データとします。
指定文字を削除	選択したデータから指定した半角文字を削除して入力データにします。3文字まで指定できます。



②マスター参照設定

照合と情報表示に使用するマスター参照データの設定をします。

設定項目	説明
マスターファイル	マスター参照に使用するファイルを設定します。 マスター参照を使用しない場合は空欄にしてください。
検索キーフィールド No	検索するフィールド No を設定します。 設定範囲 1～25
検索キーデータ	バーコード読取設定において設定した照合データを検索するキーとちて設定します。
検索データが存在しない場合エラー	設定すると、検索データがマスターファイルに存在しない場合、エラーにします。
情報表示データ参照	マスター参照データの情報を画面に表示する場合にチェックしてください。
表示データフィールド No	情報表示データのフィールド No を設定します 設定範囲 1～25
照合データ数	マスターファイルから取得する照合データ数(1～5)を選択してください。 照合データを取得しない場合は0にしてください。
照合データフィールド No	マスターファイルから取得した参照データを照合データに設定します。設定範囲 1～25

■ファイル名

ファイル名は、HT内のファイル名と重複しないように、下記の書式で入力してください。

<大文字半角英数字 1～8文字>、<拡張子(大文字半角英数字 1～3文字)>

(拡張子にPD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, ZIP, TMPを使用しないでください。)

フィールド情報ファイル(.FLD)は、下記の書式で作成してください。

<フィールド 1 桁数>、<フィールド 2 桁数>、<フィールド 3 桁数>、・・・、<フィールド N 桁数>

設定フィールド桁数範囲：1 ～ 25

③照合条件設定

読み込んだバーコードから取得した照合データと既に取り得している照合データの照合条件を設定します。

設定項目	説明
照合条件	照合条件を満足した場合にOKを表示します。 条件A, 条件A and 条件B, 条件A and 条件B and 条件C, 条件A and 条件B and 条件C and 条件D, 条件A and 条件B and 条件C and 条件D and 条件E から選択します。選択により条件A～条件Eの設定に必要な条件を表示します。
条件A～E	バーコードから取得した照合データと既に取り得している照合データを設定します。

条件の左はバーコード読取で取得した照合データから選択し、右は既に取り得している照合データとマスター参照により取得した照合データから選択します。

[照合元データA]～[照合元データE]の表示は、照合元のバーコード読取で設定した照合データです。

[照合元マスターA]～[照合元マスターE]の表示は、照合元のマスター参照で設定した照合データです。

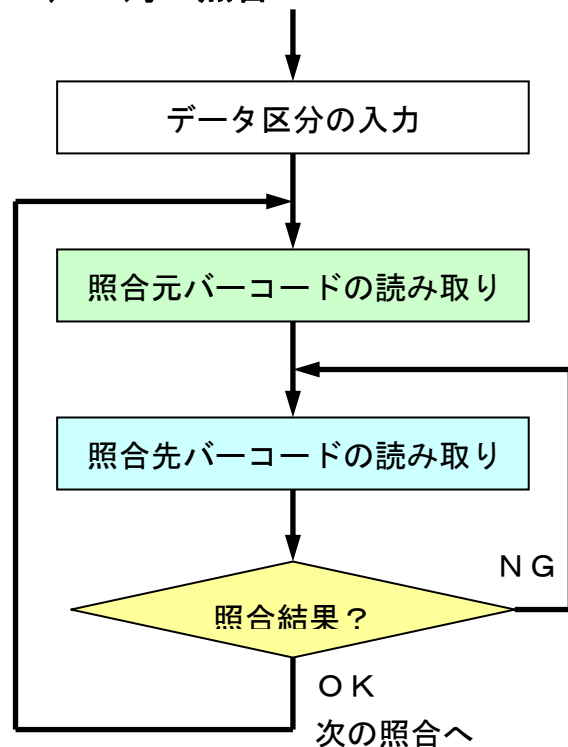
[照合先1データA]～[照合先1データE]の表示は、照合先1のバーコード読取で設定した照合データです。

[照合先1マスターA]～[照合先1マスターE]の表示は、照合先1のマスター参照で設定した照合データです。

3-2 動作モード

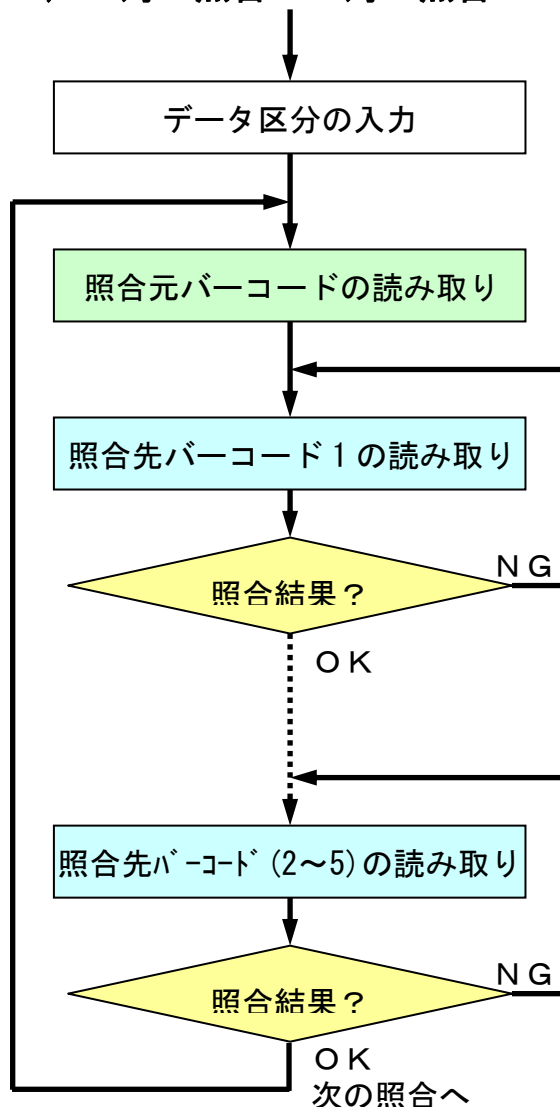
1対1照合, 1対2照合, 1対3照合, 1対4照合, 1対5照合, 1対N照合から選択します。

1) 1対1照合

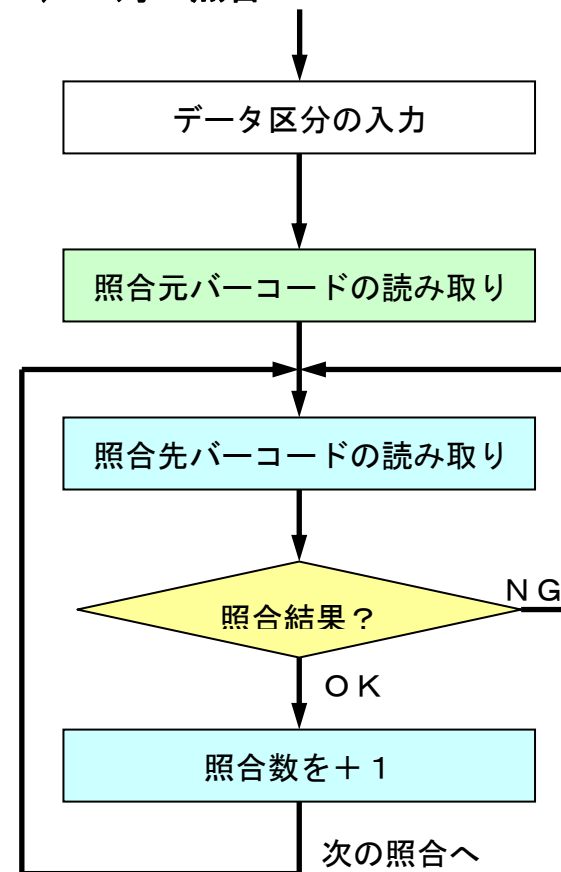


注) 「データ区分入力」はデータ区分を使用する場合のみです。

2) 1対2照合～1対5照合



3) 1対N照合



3-3 OK/NGブザー設定

OK表示時間	30	1/10秒	NG表示時間	30	1/10秒
OKブザー設定			NGブザー設定		

OK/NGを表示する時間を、1/10秒単位で0～99の数値を設定します。
0を設定した場合は表示しません。99を設定した場合は表示し続けます。

OKブザー設定

WAVファイル	
周波数	1 Hz
鳴動回数	1 回
鳴動時間	1 1/10秒
休止時間	1 1/10秒
動作デバイス	ブザー
キャンセル	確定

WAVファイルを設定した場合は、WAVファイルを使用します。
WAVファイルを設定しない場合は、周波数、鳴動回数、鳴動時間、休止時間を使用してブザー、バイブレータを動作させます。

設定項目	説明
WAV ファイル	下記の形式の音声ファイルを設定します。 ① ファイル形式 WAV ② オーディオ形式 PCM (リニアPCM) ③ サンプル周波数 8KHz～48KHz ④ サンプルサイズ 8bit, 16bit ⑤ チャンネル 1ch (モノラル), 2ch (ステレオ) 2chの場合、leftチャンネルを再生
周波数	0=低音 1=中音 2=高音 62～5000Hz 3～61の値は設定できません。 0, 1, 2を設定した場合、「LCDコントラスト/ブザー/バイブレータの調整画面」でブザー音量を変更することができます。 62～5000Hzを設定するとブザーの音量は最大となり、変更することができません。
鳴動回数	0～99 0を設定するとブザーは鳴りません。
鳴動時間	1～99 1/10秒単位で設定
休止時間	1～99 1/10秒単位で設定
動作デバイス	ブザー, バイブレータ, ブザー+バイブレータから選択



4 データ保存

照合結果を保存して送信する場合は、[照合結果を保存する] をチェックしてください。

照合カウント 照合プログラム設定 (BHT-1300)

ここをクリック →

データ区分
照合条件
データ保存
キャンセル
更新

☒ 照合結果を保存する

保存ファイル A.TXT

保存フィールド数 7

保存条件 照合OK

重複データ保存 許可

フィールド	フィールド名	フィールド値	桁目から	桁数	桁
フィールド1	HtNo	9999	桁目から	4	桁
フィールド2	照合元バーコード	1	桁目から	13	桁
フィールド3	照合先バーコード	1	桁目から	13	桁
フィールド4	OK	1	桁目から	2	桁
フィールド5	照合数	9999	桁目から	4	桁
フィールド6	日付A(YYYY/MM/DD)	1	桁目から	10	桁
フィールド7	時刻A(HH:MM:SS)	1	桁目から	8	桁

設定項目	説明
保存ファイル	保存するファイル名を設定します。HT内のファイル名と重複しないようにしてください。 <大文字半角英数字1～8文字>、<拡張子(大文字半角英数字1～3文字)> (拡張子にPD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, TMPを使用しないでください。)
保存フィールド数	保存するデータのフィールド数を最大16フィールドまで設定します。
保存条件	照合OK, 照合NG, 照合OK/NG から選択します。 照合OK: 照合OKになった場合にデータを保存 照合NG: 照合NGになった場合にデータを保存(エラー表示した場合はデータ保存しません) 照合OK/NG: 照合OKと照合NGの場合にデータを保存
重複データ保存	重複データ保存を禁止するフィールドを設定してください。 許可を設定すると重複データ保存を許可します。

■ 保存フィールド設定

フィールドデータとして、H t N o , データ区分, 照合元バーコード, 照合先バーコード, O K , N G , O K / N G , 照合数, 照合日付, 照合時刻 から選択します。

フィールドデータ	説明
H t N o	アシストパックのサブメニューにおける 3. HtNo 設定で設定した数値。
データ区分	データ区分を設定した場合のみ設定できます。
照合元バーコード	照合元において読み取ったバーコードデータ
照合先 1 ～ 5 バーコード	照合先 1 ～ 5 において読み取ったバーコードデータ
O K	“OK”
N G	“NG”
O K / N G	“OK” or “NG”
照合数	日付と時刻以外が同じデータの照合数を保存します。
日付 A (YYYY/MM/DD)	タイムスタンプで Y Y Y Y / M M / D D (1 0 桁) を保存します。
日付 B (YYYYMM/DD)	タイムスタンプで Y Y Y Y M M D D (8 桁) を保存します。
日付 C (YY/MM/DD)	タイムスタンプで Y Y / M M / D D (8 桁) を保存します。
日付 D (YYMMDD)	タイムスタンプで Y Y M M D D (6 桁) を保存します。
時刻 A (HH:MM:SS)	タイムスタンプで H H : M M ; S S (8 桁) を保存します。
時刻 B (HHMMSS)	タイムスタンプで H H M M S S (6 桁) を保存します。
時刻 C (HH:MM)	タイムスタンプで H H : M M (5 桁) を保存します。
時刻 D (HHMM)	タイムスタンプで H H M M (4 桁) を保存します。

データ区分, 照合元バーコード, 照合先バーコードの場合、保存するデータの先頭位置と桁数（保存桁数）を設定します。
H t N o と照合数は桁数（保存桁数）を設定します。

フィールド1 桁目から 桁

上記の場合、データ区分の 1 桁目から 1 6 桁のデータを保存します。

「9 9 9 9 桁目から 1 6 桁」と設定した場合は、「末尾から 1 6 桁」のデータを保存します。



5 設定更新

「更新」をクリックすると設定データを更新します。設定は業務設定データに保存します。

ここをクリック

1対1照合 照合プログラム設定 (BHT-1300)

データ区分
照合条件
データ保存
キャンセル

☒ 照合結果を保存する

保存ファイル A.TXT 保存フィールド数 7

保存条件 照合OK/NG

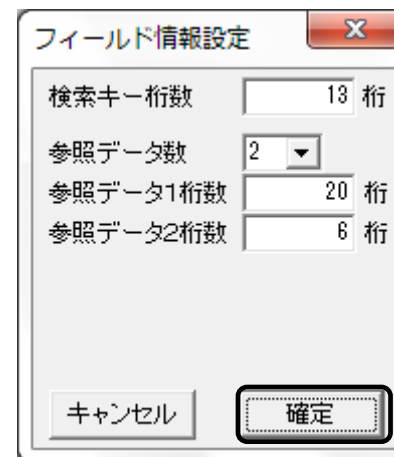
フィールド1	HtNo	99	桁目から	4	桁
フィールド2	照合元バーコード	1	桁目から	13	桁
フィールド3	照合先1バーコード	1	桁目から	13	桁
フィールド4	OK/NG	1	桁目から	2	桁
フィールド5	照合数	99	桁目から	4	桁
フィールド6	日付A(YYYY/MM/DD)	1	桁目から	10	桁
フィールド7	時刻A(HH:MM:SS)	1	桁目から	8	桁

6 マスターファイル作成／送信

[マスターファイル作成/編集/転送] ボタンをクリックします。



新規作成



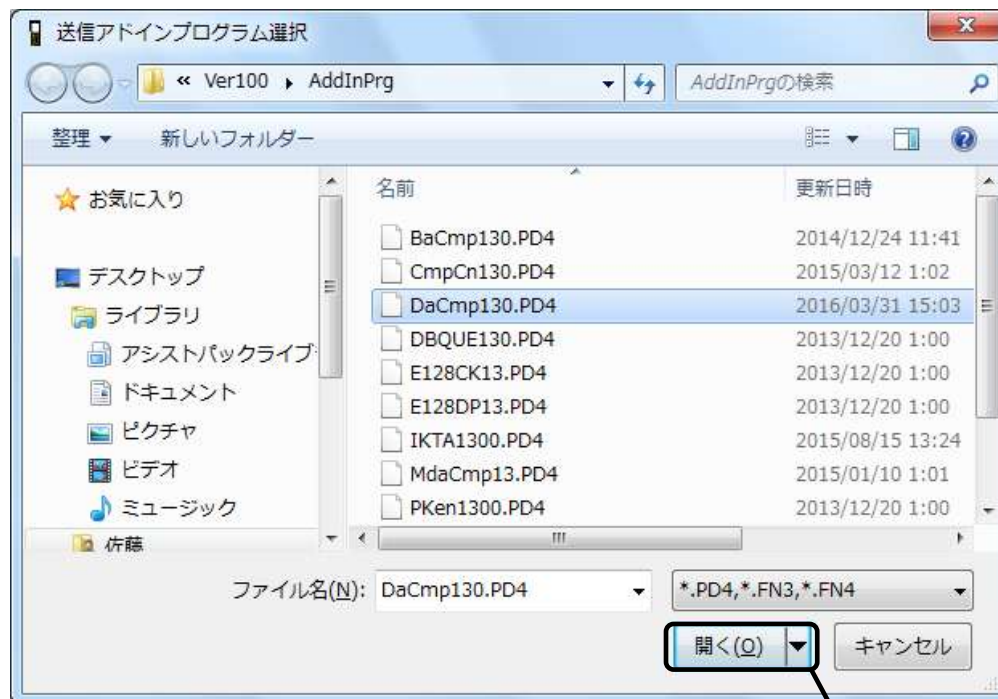
確定

参照データ数を1にして、フィールド情報で設定した検索キー桁数と参照データ桁数を設定します。

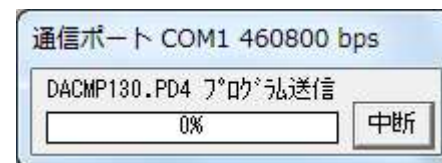
7 ハンディターミナルプログラム

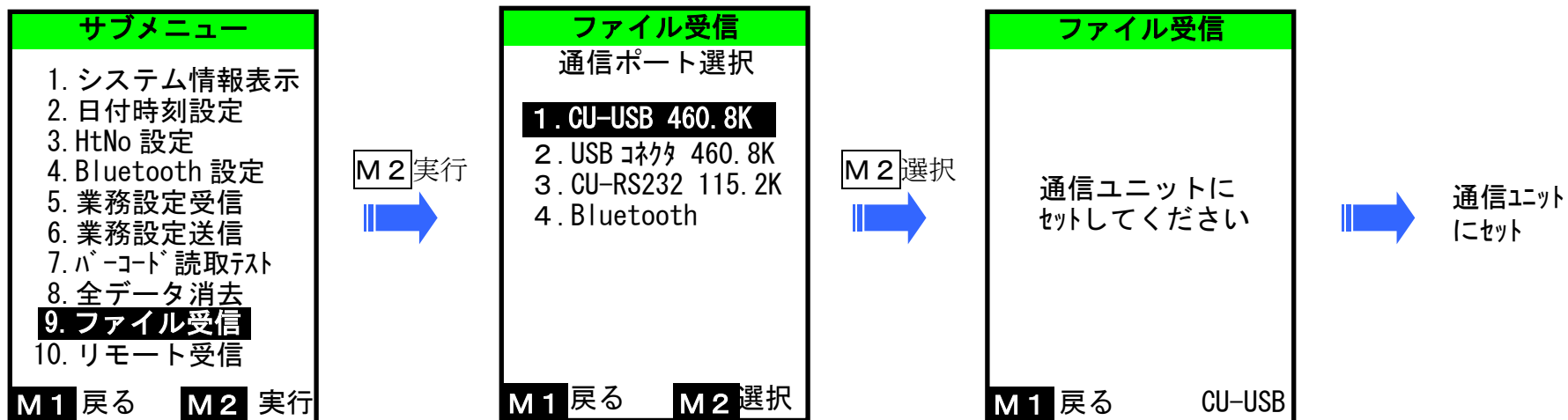
7-1 アドイン照合プログラムダウンロード

アドイン照合プログラム「DACMP130.PD4」をBHT-1300にダウンロードします。



DaCmp130.PD4 を
選択してクリック





7-2 業務設更新

アドイン照合を設定した業務設定をBHT-1300に送信して更新します。



サブメニュー

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
- 5. 業務設定受信**
6. 業務設定送信
7. バーコード 読取テスト
8. 全データ消去
9. ファイル受信
10. リモート受信

M1 戻る **M2** 実行

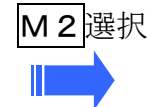


業務設定受信

通信ポート選択

- 1. CU-USB 460.8K**
2. USB コネクタ 460.8K
3. CU-RS232 115.2K
4. Bluetooth

M1 戻る **M2** 選択



業務設定送信

通信ユニットに
セットしてください

M1 戻る CU-USB



通信ユニット
にセット

通信ポート COM1 460800 bps

業務設定 送信中

50%

中断



業務設定データ...

正常終了

OK

7-3 アドイン照合プログラム実行

業務メニュー

- 1. バーコード照合**

F1 Ver **F2** サブメニュー **M2** 実行



バーコード照合

データ区分

.....

M1 終了 **M2** 確定

データ区分を設定した
場合にのみ表示します。



照合画面



7-4 1対1照合 ~ 1対5照合

バーコード照合

照合元

.....

M1 戻る

マスターバーコード
読取



M1 戻る

データ区分を設定しない場合は「終了」を表示します。

照合元入力： キーとバーコードの入力可能です。
照合先入力： バーコード入力のみ。

バーコード照合

照合元 4912345678901

照合先

1 / 1

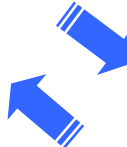
M1 戻る

照合OK



次の照合
バーコード読取

照合NG



バーコード照合

照合元 4912345678901

OK

照合終了すると
次のマスターバーコード
読取画面へ



データ保存で
保存条件が
照合OK、照合
OK・NGの場合に
データを保存し
ます。

バーコード照合

照合元 4912345678901

NG

データ保存で
保存条件が
照合NG、照合
OK・NGの場合に
データを保存
します。

7-5 照合 1対N照合

バーコード照合

照合元

.....

M1 戻る

マスターバーコード
読取



M1 戻る

バーコード照合

照合元 4912345678901

照合先

照合数 99999

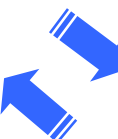
M1 戻る

照合OK



次の照合

照合NG



バーコード照合

照合元 4912345678901

OK

データ保存で
保存条件が
照合OK, 照合
OK・NGの場合に
データを保存
します。

照合元バーコードを読み取ると、照合数を0にします。

照合元入力： キーとバーコードの入力可能です。
照合先入力： バーコード入力のみ。

バーコード照合

照合元 4912345678901

NG

データ保存で
保存条件が
照合NG, 照合
OK・NGの場合に
データを保存
します。



7-6 入力／データ処理エラー表示

入力またはデータ処理時にエラーが発生すると、最下位行にエラー状況を表示し、ブザーまたはバイブレータで警告します。

エラー	エラー表示	内容
未入力エラー	未入力エラー	1桁の入力もしないで入力確定した場合
入力文字数エラー	入力文字数エラー	最小入力桁数以下のデータ入力において、入力画定した場合
入力文字エラー	入力文字エラー	数字（0 詰め表示）と数字（0 サプレス表示）のデータ形式において、バーコードにCODE 3 9, CODE 9 3, CODE 1 2 8 など数字以外のデータを扱うバーコードを設定して、数字以外の文字を読み取った場合
入力値エラー	入力値エラー	日付または時刻のデータ形式において、入力できない値を入力した場合（例：日付のデータ形式において、月の値に 20 を入力した場合）
バーコード 桁数エラー	バーコード 桁数エラー	バーコード読取桁数が設定範囲外の桁数の場合に発生します。
バーコード 長オーバー	バーコード 長オーバー	バーコード読取桁数が 3 5 0 0 桁を超えた場合に発生します。
データチェックエラー	データチェックエラー	設定したデータチェックにおいてエラーになったの場合
バーコードデータエラー	バーコードデータエラー	部分照合モードにおいて、フォーマットが「カンマ区切り」, 「スペース区切り」, 「タブ記号区切り」, 「CR記号区切り」の場合、読み取ったバーコードデータに必要なデータ数がない場合
マスターファイルがない	マスターファイルがない	文字列表示用マスターファイルまたは照合マスターファイルがない場合
マスターに未登録です	マスターに未登録です	マスターファイルに検索データがない場合
重複保存エラー	重複保存エラー	指定した保存フィールドのデータが重複するする場合
処理エラー	処理エラー	上記以外エラー

データ保存設定の場合、上記のエラーが発生した場合はデータを保存しません。



7-7 照合データ送信

未送信のデータが保存されている業務の左に ▶ を表示します。送信したい業務を選択して **右トリガーキー**を押します。

業務メニュー ▼

▶ 1. バーコード照合
2. 入荷照合

F1 Ver F2 サブメニュー M2 実行

右トリガーキー
▶

バーコード照合>送信

通信ユニットに
セットしてください

M 1 戻る CU-USB

通信ユニット
にセット
▶

バーコード照合>送信

送信中
00001

M 1 中断 CU-USB

送信終了
↓

バーコード照合>送信

送信終了

M 2 確認

確認
▶ 業務メニューに戻る

未送信の保存データがあると
業務メニューに ▶ を表示します。

7-8 マスターファイル受信

サブメニューの「9. ファイル受信」を使用してマスターファイルを受信してください。

受信するファイル名のファイルが存在する場合は、予め送信／削除してから受信してください。

